最終コーナー（ゴール目前）のアイアンマンジャパン看板前にて

地域の元気 げんき印じるし

「トライアスロンで鉄人の島、五島を世界に発信」

北川 数幸（きたがわ・かずゆき）さん

■アイアンマンジャパン大会事務局■
五島市生まれ、五島市役所に勤務し、2005年大会よりアイアンマンジャパン大会事務局の担当という重責を務めると共に、地域活動では福江ドリームス　ソフトボールコーチとしても活躍中。

長崎港から西方100㎞に位置する五島市は、温暖な気候で四季を通して、釣りやマリンスポーツができる楽園です。この環境を活かし、島の活性化の起爆剤としようと2001年より開催されているのが「アイアンマン世界選手権」の国内予選を兼ねた国際大会「アイアンマンジャパントライアスロン五島・長崎」です。

大会事務局の北川さんは、「誘致当時の1999年を振り返ると、五島市は農業、漁業、観光を基幹産業としながら約５万人が生活していましたが、過疎化や高齢化が進み、交流人口の拡大が求められていました。そのような中、トライアスロンの最高峰、アイアンマン大会を五島で開催との話が急浮上しました。国内外から約800人の選手と、その関係者の来島が見込まれ、地元では『五島振興の起爆剤に』と期待が膨らみました。」と大会誘致の経緯を語られます。

01年７月の第１回大会の開催に当たって、全長226㎞におよぶコースの設定や長時間にわたる交通規制に加えて、大規模なボランティアの確保など、課題が山積みでした。大会事務局では「島民一人ひとりが支える大会」を目指し、町内単位で説明会を開き、広報誌等に情報の提供や事前対策を徹底するなど、地域が一体となった万全の体制づくりが進められ、大会は大成功を収めました。

以来、島内の高校生をはじめとする住民や島外から約4,000人の大ボランティアの応援を受けて、静かな島は年に一度、「鉄人の集う島」として島の魅力を全世界に発信をしています。また、04年には「地域づくり総務大臣表彰地域振興部門」を受賞しました。

「アイアンマン大会は約２億円に上る経済効果が見込まれ、今では鉄人の島としての大会は島民の誇りになっています。今後も大会を通した様々な交流から地元の子供たちのホスピタリティを醸成し、皆さんに感動と元気を与えたいです。」と、北川さんたちは６月22日の第８回大会に向けて鉄人のように、準備を進めています。

スイムの様子

ボランティアによる給水